

部会・コミュニティ 参加募集資料

一般社団法人情報サービス産業協会

今回の公募対象部会

※ 平成28年度の活動状況については、協会HPで活動報告をご覧ください。URLは次のとおりです。

<http://www.jisa.or.jp/activity/committee/tabid/1658/Default.aspx>

※お問い合わせ先

【募集全般】

【活動内容等】

企画調査部 koubo@jisa.or.jp まで

各スライド記載の担当まで

1. 目的

IoT、AI、ビッグデータ等に代表される先進技術の動向を把握し、これらを活用した製品・サービスを実現していくための課題整理に取り組む

2. 活動内容

- 先進技術利活用事例やソリューションに関する事例研究と課題整理
- RRI（ロボット革命イニシアチブ協議会）、JCCI（日本商工会議所）等IoTはじめ先進技術利活用関連組織との連携協力活動

3. 部会長

部会長：端山 毅((株)NTTデータ 技術革新統括本部・シニアスペシャリスト)

4. 委員資格

JISA会員企業における先進技術・新技術に関する研究・開発・実装部門の方
当該領域における有識者

5. 会合の頻度及び委員の作業

- 会合は原則として月1回（今年度は5回程度）開催を予定
- 対象事例に関する情報提供、調査に際しての調整、課題整理・とりまとめ

6. 事務局担当

山本 英己 yamamoto@jisa.or.jp

1. 目的

顧客の情報システムや消費者のデータの安全確保の一端を担っている立場から、具体的な脅威や事例に対して情報サービス産業はどのように対応すべきか検討する

2. 活動内容

- 具体的脅威や事例をもとに情報サービス企業としての対応の在り方を意見交換
- 早期警戒パートナーシップに関する対応

3. 部会長

部会長：未定

4. 委員資格

JISA会員企業の情報セキュリティ責任者、社内CERT関係者、セキュリティポリシー立案者、セキュリティ管理者、その他情報セキュリティ有識者

5. 会合の頻度及び委員の作業

会合は原則として月1回（今年度は5回程度）開催を予定。部会内における情報交換のために書面による機密保持に同意して頂けること。脅威、インシデントに関する対応例や考え方を発表できること

6. 事務局担当

山本 英己 yamamoto@jisa.or.jp

1. 目的

当業界の生産性・収益性の向上に資する提案を行う。

2. 活動内容

(1) 収益構造転換の必要性の確認

収益性の高い企業の研究や、さまざまな業界統計より、業界の収益構造や市場規模、投資予測などを正しく認識する。

(2) 生産性・収益性向上を阻害する課題の洗い出し

構造転換の阻害要因の洗い出しと、転換実現に向けた仮説を設定し、仮説検証を目的とした実態調査（アンケート調査）を会員各社向けに実施する。

(3) JISA会員を前提とする課題の解決法の検討と提言

JISA会員企業を想定する収益構造転換にむけた方策の検討し、ノウハウに共感する会員企業グループコミュニティを形成する。

3. 部会長

部会長： 須川壮己((株)インテージテクノスフィア代表取締役社長)

4. 委員資格

活動内容に関心がある方

5. 会合の頻度及び委員の作業

頻度：会合は1か月に1回程度開催。

作業(予定)：データ分析や分析結果の執筆など

6. 事務局担当

大原道雄 (mohara@jisa.or.jp)

1. 目的

企業変革を担うリーダー人材の発掘・育成をミッションとする。

2. 活動内容

(1) 活動目標／成果

- ・ 同業他社の有望人材との将来におけるコミュニティを形成する。
- ・ 同人材が、所属企業内の常識にとらわれない自由な発想が出来るようになる。

(2) 活動内容

- ・ 業界を代表する「異端児や成功者」の講演を聴き、その内容を基点に討議する。
- ・ 講師は、受託開発やSIビジネスの経験があり、一方で、組織の常識にとらわれず自立的なビジネスに取り組んでいる方を選定する。部会メンバに近いロールモデルに触れることにより、自ら変革の必要性に気付く活動にする。
- ・ 4名程度の小グループを作り、グループ毎に課題を設定して活動することを予定。
- ・ 隔月にて開催予定。第1回目の講師は倉貫部会長の講演を予定。

3. 部会長

部会長： 倉貫 義人((株)ソニックガーデン代表取締役社長)

4. 委員資格

- ・ 20代後半から30代前半の、各社において5年から10年後に中核となる人材。
- ・ 主体的に判断・行動できる自立した人材を目指す方。
- ・ 部会メンバは20名までとし、1社から2名の参加に限る。

(参加者多数の場合には1社1名に調整させていただく場合があります。)

5. 会合の頻度及び委員の作業

隔月での開催予定

6. 事務局担当

大原道雄 (mohara@jisa.or.jp)

1. 目的

CO2削減等の環境問題や環境負荷低減にもつながるデータセンターの一層の普及活用を目的とする

2. 活動内容

(1) JISA低炭素化社会自主行動計画の推進及び環境関連法規制への対応

JISA低炭素化社会実行計画参加企業の拡大を図るとともに、参加企業の低炭素化活動の状況調査を実施する。また、東京都環境確保条例や改正省エネ法といった、環境関連法規制についての動向把握に努める。

(2) 環境負荷低減にもつながるデータセンターに関する研究

データセンター産業の発展を堅持していくため、先進的なデータセンター事例の調査をおこなう。また、海外データセンターとの環境性能の側面における優位性を明確化する。

3. 部会長

部会長： 藤井 裕久((株)野村総合研究所 DCマネジメント部長)

4. 委員資格

環境関連部門又はデータセンター関連部門関係の方

5. 会合の頻度及び委員の作業

会合は年に4回程度開催。環境関連施策の検討及びデータセンター統計の検討を実施

6. 事務局担当

大原道雄 (mohara@jisa.or.jp)

1. 目的

情報サービス産業に対する理解を業界内外に広く浸透させ、業界プレゼンスの向上を図る。主に、学校・学生向けに情報発信を行う。

2. 活動内容

学生に当業界の魅力を発信し、間接的に会員の採用活動を支援する。

- (1) 『IT業界研究カフェ』の企画・実施※学生に会員企業で働く人の「生の声」を届けるイベント。
 - 平成29年11月(土/日)、JISA会議室で開催予定。
 - ・この他、『出張版 IT業界研究カフェ』の実施を検討する。
- (3) 業界と学生が直接繋がる仕掛け（SNS、学生向け情報コンテンツ等）作りの検討
- (4) 採用担当者同士の情報交換

3. 部会長

部会長：杉村 元規(ARアドバンステクノロジー(株) 人事部)

4. 委員資格

各社の採用担当者

5. 会合の頻度及び委員の作業

- ・会合はイベント開催までは月1回程度の予定。その後は必要に応じて開催する。
- ・『IT業界研究カフェ』の企画・運営・実施に係る作業（担当を決め分担します）。

6. 事務局担当

増田菜里子(nmasuda@jisa.or.jp)・赤尾多恵 (takao@jisa.or.jp)

開設中のコミュニティ

※ 平成28年度の活動状況については、協会HPで活動報告をご覧ください。URLは次のとおりです。

<http://www.jisa.or.jp/activity/committee/tabid/1658/Default.aspx>

※参加申込サイト：

<https://www.jisa.or.jp/activity/committee/tabid/1965/Default.aspx>

※お問い合わせ先

【募集全般】

企画調査部 koubo@jisa.or.jp まで

【活動内容等】

各スライド記載の担当まで

- ◆ 業界の声を集約する(社員参加型)
- ◆ 業界内外よりスペシャリストが集うオープンイノベーションを追求する“場”
- ◆ 参加者自らが具体的な目的、目標、活動内容を自律的に決定し、参加者の実情に合わせ、開催日時の設定やSNSの活用等、柔軟な運営を指向する。また、必要に応じて委員会への改組、期中での新規設置及び解散等、機動的に設置・運営していく。

1. 目的

ITアーキテクト及びその育成担当が情報交流しお互いに切磋琢磨する

2. 活動内容

28年度は、ITアーキテクトがオープンに集う場として、参加者の人的ネットワークの拡大や能力の向上を目的に、以下の活動を行った。

- ・「マイクロサービス」や「モダナイゼーション」といった、近年主流になってきている設計手法をテーマに議論をした。
- ・次代を担うITアーキテクトの育成も活動に含め、会合にはメンバ企業の若手も自由に参加できるよう柔軟な運営を志向した。

29年度はITアーキテクトに関するテーマ（人財育成、A I、運用管理&DevOpsなど）を設定し、そのテーマに関心があるメンバ（5～6人のチーム）が主体的に課題を設定し、議論やイベント企画などを行う。

3. 幹事

今村 大輔（東芝ソリューション(株) 生産技術センター センター長）

4. 参加者（登録要件）

情報システム戦略を具体化するための情報システムの構造設計や開発に必要となる要件の定義、システム方式の設計及び情報システムを開発する業務に従事する方。またはITアーキテクトの育成を担当されている方。

5. 事務局担当

佐藤 厚夫（asato@jisa.or.jp）

アジャイルコミュニティ

1. 目的

スピード経営に対応した開発方法論の普及とビジネスに活かすことを目指す。

2. 活動例

- ・アジャイルに関する事例を共有する。
- ・JISA会員のアジャイル開発における現状把握としてアンケートを企画、実施する。
- ・アジャイルの普及に資するセミナーの企画、運営を行う。
- ・外部イベント等で活動報告をしてアジャイルの普及活動を行う。

3. 幹事

角野幸子(NECソリューションイノベータ(株) 技術統括本部 エキスパート)
安藤寿之(NECソリューションイノベータ(株) 技術統括本部 主任)

4. 参加者（登録要件）

※開発プロセスに興味がある方ならどなたでも参加できます。

- ・アジャイル開発経験の有無関係なく、アジャイル開発に興味関心がある方
- ・開発プロセスについて情報収集をしたい方

5. 参加申込、お問い合わせ

佐藤 厚夫 (asato@jisa.or.jp)

1. 目的

業界各社におけるPM力強化に資する活動を行う。

2. 活動例

関係諸団体（PMI日本支部等）とも連携しながらプロジェクトマネジメントの高度化を活動目標とする。本年度は、特に、プロジェクトマネジメントの評価軸に着目した活動をする。

【本年度の具体的な活動内容】

参加企業間でプロジェクトマネジメントの評価軸事例を共有し、ベストプラクティスを検討する。

【本年度の検討キーワード】

・人材調達方法・ステークホルダマネジメント・リスクマネジメント・タイムマネジメント など

【参考：昨年度のディスカッションテーマ】

【テーマ1】不採算プロジェクトへの対応

【課題】

- ・不明瞭の要求仕様での受注案件増加
- ・マイグレーション
- ・一括請負の商慣習
- ・不採算化の事前検知

【各社での取り組み】

- ・3つの新（新技術・新業務・新顧客）の受託方針
- ・FP法など見積り精度向上
- ・現行システムの仕様復元チームの設置

【テーマ2】プロジェクトマネージャの育成

【課題】

- ・プロジェクトマネージャの高齢化
- ・システム開発経験がないプロジェクトマネージャの存在
- ・経験を積ませる案件の減少

【各社での取り組み】

- ・PM認定制度をベースとしたプロジェクトの人員配置
- ・メンターメンティ制度の拡充
- ・PMP取得等、資格制度との紐付け

3. 幹事

(株)NTTデータ 林 路彦

4. 参加者（登録要件）

自社のプロジェクトマネジメントを統括する立場の方

5. 事務局担当

大原 道雄 (mohara@jisa.or.jp)

1. 目的

REBOK®の普及活動を通じ要求開発の事例研究と情報共有を行う。

2. 活動例

- ・ 要求開発事例の研究
- ・ 要求開発研究の調査、講演

3. 幹事

北川貴之(東芝ソリューション(株))

4. 参加者（登録要件）

- ※ 要求開発、要求工学に関心のある方ならどなたでも参加出来ます。
- ・ 要求工学を活用した事例について情報収集したい方
 - ・ 要求工学に関連する技術について意見交換したい方

5. 事務局担当

佐藤 厚夫 (asato@jisa.or.jp)

1. 目的

要求仕様書の品質向上を図る設計方法論RISDM(Requirements Inspection Systems Design Methodology)を研究会参加各社において実践し、評価を行う。

2. 活動例

- ・インスペクション設計方法論RISDMの習得
- ・研究会参加各社における実プロジェクト適用事例の報告

3. 幹事

青山幹雄(南山大学理工学部教授)

4. 参加者（登録要件）

- ・要求開発を実践し、自社の事例を公開できること。
- ・RISDMを適用した事例を研究会内で共有できること。
- ・守秘義務契約を結び、自社以外での情報共有を行わないこと。

5. 事務局担当

佐藤 厚夫 (asato@jisa.or.jp)

1. 目的

コミュニケーションの観点からプロジェクトの健全性評価について研究する。

2. 活動内容

平成28年度までの活動は「プロジェクト健全性評価指標利用ガイドライン」を基に参加各社の事例を持ち寄り、事例を通じて健全性評価指標の適用可否の検証とプロジェクト成功要因の研究を行った。平成29年度は、プロジェクト健全性評価の意義を広めるための普及活動や活用方法に関しての講演や指導を実施できるように、さらなるプロジェクト健全性評価についての研究を継続していく。

3. 幹事

早乙女真（（株）NTTデータ経営研究所 シニアスペシャリスト）

4. 参加者（登録要件）

- ・ステークホルダーとのコミュニケーションマネジメントに課題を感じる方
- ・自社のプロジェクトに関する健全性に係る情報を実践事例として研究会に提供できる方（提供いただく情報のレベルについては、各社のセキュリティに配慮する。）
- ・守秘義務の覚書を提出し、情報は原則として研究会外秘とする。

5. 事務局担当

佐藤 厚夫 (asato@jisa.or.jp)

1. 目的

JISA「VSE標準 導入の手引き」の活用及び普及促進を行う。

2. 活動内容

- 1) 「VSE標準導入の手引き」に記述されているプロジェクト管理プロセス、ソフトウェア実装プロセスの各項目(アクティビティ)について、参加各社の実務経験に基づく不明点や活用上の課題を討議する。
- 2) アジャイル開発等への適用研究
- 3) 「VSE標準 導入の手引き」の改版に向けた討議
- 4) VSE（基本開発プロセス）の基となる国際規格(ISO/IEC29110シリーズ)の活動状況の情報提供

3. 幹事

宮迫 久浩 ((株)リンクレア 品質統括本部 品質マネジメント室 マネジャ)

4. 参加者（登録要件）

- ・ソフトウェア開発の能力向上に関心のある方
- ・ソフトウェア開発プロセスの定義または改善したいと思っている方

5. 事務局担当

佐藤 厚夫 (asato@jisa.or.jp)

1. 目的

会員を中心とした企業連携を目指す。
ビジネス交流セミナー等、多様な参加者が交流できる場を提供する。

2. 活動例

- 自社事業、取り組みの発表、パートナー連携、有識者講演
- AI・自動認識+クラウドなどをテーマとしたビジネス交流セミナーの企画開催
(<http://www.jisa.or.jp/Portals/0/resource/news/1083/501.pdf> 参照)
- 多様な参加者が交流・懇親を深めることができる場の提供
- 女性の目線でボトムアップの企業連携を考える場の提供

3. 幹事

代表幹事：大津 崇 (株) システム計画研究所
幹 事：伊藤 整一 (株) 網屋
岡田 日出則 (株) リンクレア
岡本 尚也 富士通エフ・アイ・ピー (株)
竹屋 嘉章 東京海上日動システムズ (株)
田中 樹里子 エプソンアヴァシス (株)

4. 参加者（登録要件）

経営者
経営中堅幹部
IT有識者

留意事項：29年度第1回会議は7月11日（火）または7月24日（月）17:30-20:00に開催予定

5. 事務局担当

山本英己 (yamamoto@jisa.or.jp)

1. 目的

ワーク・ライフ・バランスの推進を目的とする。

2. 活動例

ワーク・ライフ・バランス推進に係る小規模なテーマを設定し、勉強会（20～30名規模で年度内に3回程度開催予定）を実施する。テーマ案としては、働き方改革、女性活躍、両立支援、テレワーク、長時間労働、健康経営等を検討する。

3. 幹事（予定）

山谷明子（コムチュア(株) 人事総務本部長）

4. 参加者（登録要件）

「働き方改革」「女性の活躍推進」等、ワーク・ライフ・バランス推進に興味・関心がある方。また、ワーク・ライフ・バランスの確立に向けて働きかけたい方。

5. 事務局担当

増田菜里子

1. 目的

一般社団法人未踏との連携による、JISA会員企業の収益性向上および新規事業の創出を目的とする。

2. 活動例

未踏事業とJISA企業の新規事業創出における課題解決に資する活動をおこなう。本活動は相互補完関係が成立することを志向する。

3. 幹事

座長：島田俊夫 (株)CAC Holdings 取締役会長

4. 参加者（登録要件）

以下企画書に賛同する方

<http://www.jisa.or.jp/Portals/0/data/community2017b.pdf>

5. 事務局担当

大原 道雄(mohara@jisa.or.jp)